

鉄鋼概況

鉄連 温暖化対策で 2030 年目標を策定

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

10月の全国粗鋼生産量は、前年同月比1.7%減と2カ月連続前年同月実績を下回ったが、年率生産で1億1千万トンを超す高水準を維持している。10月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比8.4%増と2カ月連続で前年同月実績を上回った。輸入は前年同月比8.6%増と12カ月連続で前年を上回り、増勢が止まらない。経済産業省集計による2014年10～12月の鉄鋼メーカー生産計画は、粗鋼生産ベースで前期比1.3%増の2,825万トンと3四半期連続の増加となり、リーマン・ショック以降最も高い四半期水準となる。鉄鋼連盟は地球温暖化対策「低炭素社会実行計画フェーズⅡ」を策定し、最先端技術を最大限導入することで、2030年の二酸化炭素排出量を2005年比900万トン削減を目指す。10月の世界（65カ国）粗鋼生産は1億3,667万7,000トンとなり、前月比1.6%増と5カ月ぶりの増、前年同月比ではほぼ横這いであった。

@@

◆鉄鋼輸入の増勢とまらず

鉄鋼連盟が発表した9月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比2,000トン増の592万9,000トンと2カ月連続で増加した。8月末には悪天候による物流の停滞から大幅な在庫増となり、9月末には減少すると予想されていたが軟調基調が続き、2001年10月（595万トン）以来13年ぶりの高水準に積み上がった。在庫率は143.4%と前月末比19.7ポイント低下したが、依然として高い水準にある。一方、9月末の普通鋼鋼材流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比1万6,000トン、0.6%増の288万1,000トンと2カ月連続の増となった。9月の販売量は前月比20万4,000トン、8.3%増の266万6,000トン（前年同月比では2万5,000トン、0.9%減）と2カ月ぶりに増加した。その結果、在庫率は前月末比8.3ポイント低下して108.1%となったが、10カ月連続で100%を上回った。

主要製品の在庫状況をみると、9月末の薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比1万2,000トン、0.3%減の431万3,000トンと2カ月ぶりに減少した。しかし、9月末は過去10年の平均では前月末比3万7,000トン減となっており、例年に比して減少幅は小さい。メーカーでは「過度の期待に添って発注されたのではないか」と見ている。在庫率は前月末比0.03ポイント上昇して2.47カ月となっている。10月末のH形鋼の流通在庫は、新日鉄住金系の建材特約店組織の「ときわ会」のまとめによると、前月末比5,100トン、2.4%減の20万7,900トンと2カ月ぶりの減少となった。在庫率も前月末比0.23ポイント低下し2.05カ月と適正水準になりつつある。新日鉄住金では引き続き需給バランスの適正化を図るとしている。

鉄鋼連盟が発表した10月の全国粗鋼生産量は、前年同月比1.7%減の936万2,000トンとなり2カ月連続で前年同月実績を下回った。年率生産では1億1,020万トンで、1億1千万トンを超す高水準を維持している。1日当たりの生産量は前月比6,000トン、2.1%減

の30万2,000トンとやや鈍化した。炉別生産でみると、転炉鋼が2.5%減の713万8,000トンで2カ月連続減、電炉鋼は0.7%増の222万4,000トンで2カ月ぶりの増加となった。鋼種別では、普通鋼が1.2%減の722万8,000トンで2カ月連続減、特殊鋼が3.4%減の210万4,000トンと16カ月ぶりの減少となった。

財務省が発表した10月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比8.4%増の355万1,000トンと2カ月連続で前年同月実績を上回った。高炉大手の主な設備改修が一巡したほか、国内向け販売も前年よりタイト感が薄れて輸出余力が回復した。全鉄鋼ベースの輸入は前年同月比8.6%増の73万4,600万トンと2013年11月以降12カ月連続で前年を上回り、増勢は止まらない。中国の影響で東アジアの供給過剰が慢性化する中、中国材を始め韓国・台湾ミルの鋼材が割高な日本市場に向っている。

主要国・地域別の輸出先をみると、アジアが前年同月比4.6%増の269万7,000トンで、そのうち中国は5.8%減の50万2,000トンで2カ月連続の減、NIE'sが0.8%増の94万8,000トン、ASEANが11.1%増の114万1,000トンとなった。その他、中東は52.9%増の18万3,000トン、米国は7.2%増の19万4,000トン、EUは16.8%減の2万1,000トン、ロシアは2.2倍の2万4,000トンとなった。主要輸入国・地域別では、アジアが前年同月比9.3%増の62万9,800トンで、このうち中国は57.6%増の15万6,500トン、ASEANは55.0%増の1万9,300トンと高い伸びとなった。

◆10～12月期粗鋼生産計画、2,825万トン

経済産業省が鉄鋼メーカーからヒアリングした2014年度第3四半期（10～12月）生産計画の集計結果によると、粗鋼生産ベースで前期比37万トン、1.3%増の2,825万トンと3四半期連続の増加となり、リーマン・ショック以降で最も高い四半期水準となる。先月に同省が策定した10～12月期の粗鋼需要見通し（2,798万トン）に比しても27万トン上振れしている。これは特殊鋼鋼材輸出が予定以上とみた結果と見られている。高炉生産は設備補修などで前期に比して減少するが、電炉は前期の夏季減産からの反動で増加する。

鋼材生産は前期比0.9%増、前年同期比0.8%増の2,437万トンで、5期連続で2,400万トン台を維持する。うち普通鋼は前期比0.5%増の1,896万トン（前年同期比0.8%減）、特殊鋼は前期比2.3%増の542万トン（前年同期比6.6%増）となる。普通鋼の国内生産は一般的に底堅く前期比3.2%増の1,232万トン（前年同期比3.1%減）とみており、輸出向け生産は高炉の設備修繕やエネルギー案件の物件差などから前期比2.6%減の664万トン（前年同期比7.2%増）としている。特殊鋼の国内生産は電炉生産の伸びなどから前期比2.8%増の342万トン（前年同期比0.2%増）、輸出向け生産は自動車生産の海外シフトなどから前期比1.4%増の200万トン（前年同期比19.9%増）とみている。

各社が生産計画を策定したのは10月の前半で、国内景気はその後減速懸念が出ている。同省では「需要動向を見込んだ柔軟な対応が重要」としている。なお、10～12月の生産計画を織り込んだ2014年暦年の粗鋼生産量は前年比0.7%増の1億1,138万トンとなり、2年連続で1億1千万トンを上回る見通しとなる。

◆鉄連、温暖化対策の2030年目標策定

鉄鋼連盟は11月12日、2030年を目標として地球温暖化対策「低炭素社会実行計画フェーズⅡ」を策定した。最先端技術を最大限導入することで、基準年を2005年として、新たな対策を打たない場合（BAU）に比較して、2030年には鉄鋼生産プロセスの二酸化炭素（CO₂）排出量を900万トン削減する（エコプロセス）。

表-1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%, 出所:世界鉄鋼協会)

	2014年10月	前年同月比	前月比	1~10月	前年同期比
フランス	1,480	(15.0)	(8.3)	13,647	(3.5)
ドイツ	3,544	(△5.9)	(0.8)	36,096	(1.6)
イタリア	2,100	(△5.4)	(△2.8)	20,444	(1.5)
スペイン	1,304	(△0.4)	(12.4)	12,018	(△0.3)
イギリス	1,060	(0.3)	(3.8)	10,323	(4.8)
EU27カ国計	14,833	(1.1)	(4.5)	142,558	(2.7)
トルコ	2,715	(△11.0)	(△6.2)	28,435	(△0.9)
他欧州計	2,921	(△9.4)	(△5.5)	30,247	(0.1)
ロシア	5,840	(1.6)	(3.4)	58,995	(2.5)
ウクライナ	1,870	(△28.7)	(3.5)	23,380	(△15.2)
C I S計	8,360	(△6.3)	(3.5)	88,521	(△2.1)
カナダ	1,160	(9.4)	(3.6)	10,717	(3.6)
メキシコ	1,630	(0.4)	(3.2)	16,039	(5.4)
アメリカ	7,310	(△0.7)	(0.1)	73,667	(1.4)
北米計	10,215	(0.3)	(1.0)	101,507	(2.1)
ブラジル	3,052	(2.7)	(5.5)	28,608	(△0.7)
南米計	3,997	(0.5)	(5.2)	37,792	(△2.3)
アフリカ計	1,255	(△10.1)	(7.5)	13,287	(2.2)
中東計	2,490	(8.4)	(6.6)	23,190	(7.7)
中国	67,516	(△0.3)	(0.0)	685,346	(2.1)
インド	7,080	(8.5)	(3.4)	69,492	(2.5)
日本	9,362	(△1.7)	(1.2)	92,491	(0.6)
韓国	6,166	(4.5)	(7.9)	59,458	(8.9)
台湾	1,970	(4.8)	(3.7)	18,908	(1.5)
アジア計	92,094	(0.6)	(0.9)	925,695	(2.3)
オセアニア計	514	(12.0)	(2.2)	4,628	(△1.2)
64カ国計	136,677	(0.0)	(1.6)	1,367,426	(2.0)
*中国以外	69,161	(0.0)	(3.2)	682,080	(1.8)

2020年目標の「低炭素社会実行計画」では2020年にBAU比500万トン削減を掲げており、「同計画フェーズⅡ」では2030年までに400万トンを上積みする。2020年までには、①コークス炉の改善で90万トン、②発電設備の効率改善で110万トン、③省エネ強化で100万トン、④廃プラスチック利用で200万トンの計500万トン、の削減可能性を示した。今回はさらに、①コークス炉の改善で40万トン、②発電設備の効率改善で50万トン、③省エネ強化で50万トン、追加する。また、水素還元製鉄、高炉ガスからのCO₂の分離・回収など革新的製鉄プロセスの実用化などによる260万トンを加えて、合計400万トンの削減を示した。革新的製鉄プロセスの技術開発はナショナルプロジェクト「COURSE50」として現在基盤技術の確立を図っており、2030年の実用化を目指している。

エコプロセスのほか、エコソリューション（日本鉄鋼業の優れた省エネ技術・設備の世界鉄鋼業への移転・普及により地球規模でのCO₂削減に貢献する）により、2005年比で2020年に約7,000万トン、2030年に約8,000万トンの削減に貢献する。さらに、エコプロダクト（製造業との連携のもとに開発した低炭素社会の構築に不可欠な高機能鋼材の国内外への供給を通じて、最終製品として使用される段階でのCO₂削減に貢献する）により、2030年には約4,200万トンの削減に貢献するとしている。

◆10月世界粗鋼生産、5カ月ぶり前月比増——WSAまとめ

世界鉄鋼協会（WSA）がとりまとめた10月の世界（65カ国）粗鋼生産は1億3,667万7,000トンとなり、前月比1.6%増と5カ月ぶりの増、前年同月比ではほぼ横這いであった。65カ国の日産量は前月比1.7%減と2カ月ぶりの減となった。中国の日産量は同3.3%減と3カ月ぶりに減少し、ピークだった6月比で約6%減と落ち込んだ。中国以外は0.1%減と2カ月ぶりに減少した。新興国の日産量では、韓国が前月比4.4%増と2カ月連続の増、インドは0.1%増と3カ月連続の増、ブラジルは2.1%増と4カ月連続の増となった。先進国ではEU28が1.1%増と2カ月連続で伸びた一方、北米は2.3%減と2カ月連続で減少し、日本も2.1%減と3カ月ぶりに減少した。 □